

○批判し合える関係作り

あるラジオ番組で、『五体不満足』の著者として知られる乙武 洋匡さんが、以下のようなコメントをされていました。

「将来的には、パラリンピアン（パラリンピック出場選手）が批判される時代が来て欲しいと思います。オリンピックで金メダルを期待されていた選手が失敗すると、世論は激しく批判しますが、パラリンピックでそうなると、同情の言葉ばかりが聞こえてきます。そうではなく、是非、1人のアスリートとして評価してもらいたいのです。」

最初は、思わず「えっ!?!」となりますが、実に、深くて説得力のある話だと感心しませんか？

これまでの学校生活を通して、人を批判することは駄目なことだと教えられた人も少なくはないでしょう。それは、他人を傷つけてしまう恐れがあるからです。

批判とは、辞書に“人の言動・仕事などの誤りや欠点を指摘し、正すべきであるとして論じること”とあります。つまり、間違えた言動に対して、直すようアドバイスしてあげることなのです。

言われた側は、他人に批判されることで、ショックを受けることもあるでしょう。ただ、それは自分に当たっているからこそそのこと。当たっている言葉は、“耳が痛い”ものです。それだけ心に刺さることもあるでしょう。自分のために言ってくれている言葉は、認めて受け入れるのが得策です。

他人の言うことは、なかなか受け入れにくいものです。しかし、批判する側は、あなたのために勇気を出して言ってくれているのです。

間違いに気づき、認める勇気を持つことは大切です。ただ、そこに互いのコミュニケーションが成立しているかどうかは肝心です。多少なりとも、互いを思いやっているからこそ、批判として受け止められますが、ほとんどコミュニケーションが取れていない間柄だと、他人を傷つけてしまえば、誹謗中傷になってしまいます。

学校、クラス、そして部活動等の質を高めるためには、批判し合える環境が必要不可欠です。お互いを良い方向に導くために、是非、コミュニケーションを取ってください。

コミュニケーションが苦手な人は多いです。しかし、それを克服できれば武器になり、かけがえのない財産になります。コミュニケーションが上達するためのポイントを3つ挙げてみます。

1. 自分をオープンにしよう！

「自己開示」と言いますが、他人から自分を守るために“心のシールド”を張るのではなく、「こんな私です」と、心を開いてみましょう。これだけでも、相当の効果はあります。

2. 相手に興味・関心を持ち、「聞き上手」になろう！

他人の話を聞いてあげたり、行動を認めることは大切です。バカにせず、うなずきながら聞き、アドバイスをしてあげることができれば、なおOK！

3. 感謝の気持ちを持とう！

“言われるうちが華”という言葉があります。自分のことについて何かを言われるのは、それだけ自分を思っていること。ありがたく受け入れる姿勢で接しましょう。